

令和4年度 理知の杜日本語学校仙台校自己点検・評価シート

◆評価方法

- A 「達成されている」若しくは「適合している」
- B 「概ね達成されている(適合している)が、不十分なところが残っている。」
- C 「未達成(未適合)だが、達成若しくは適合になるために取り組んでいる。」
- D 「未達成若しくは適合していない。今後の課題である。」
- X 該当しない。

理念・教育目標・育成する人材像	評価
<p>1.理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際化社会において、さらなるグローバル化の進展が見られる中、必要不可欠なことは、国家間の平和的かつ友好的な関係の構築であり、その実現には、民間(一般)レベルでの深い相互理解も大きな役割を担うことが必要であると考えている。 <p>2.教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の修得を希望する海外の優秀な人材を受入、日本語教育を通して、日本に対する深い理解と調和のとれた国際人を育成し、日本の将来の発展に貢献できる人材を育成する。 <p>3.育成する人材像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の言語、文化、習慣を理解し、受容し、調和していける人材がこれからより一層求められる。 日本語で「話す」「聞く」「読む」「書く」ことを修得し、不自由なくコミュニケーションが図れるような能力を育成すると同時に、日本の「文化」「習慣」等も教授し、日本に対する深い理解を持てるような人材を育成する。 	

自己点検・評価項目

1.理念・教育目標		
1-1	理念が、教職員にしっかり周知されているか。	A
1-2	教育目標が、教職員にしっかり周知され、その実現に向けて鋭意努力しているか。	A
1-3	育成する人材が、社会の要請に合致しているか、そして、人材像が教職員及び学生に周知されているか。	B

まとめ	課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や寮の行事を通して、異なる国籍の学生同士の友好的な関係構築に努めている。 ・授業は言うまでもなく、学校行事を企画する上においても、学生にどんな能力や資質を養っていきべきなのか、常に議論しながら取り組んでいる。 ・学校や寮などの生活の場において、常に、育成したい人物像を念頭に指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業はもちろんのこと、授業時間外でも学生同士の友好的な関係構築につながる取り組みを継続していく。 ・学校として留学生への教育には熱意はあるが、法人としてのビジョンをもう少し具現化し、明確にしてもよいのではないかと思う。 ・日本語授業だけではなく、日本の生活習慣や異文化理解についての指導もさらに強化していきたいと思う。

2.学校経営		
2-1	理念・目標・目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか。	B
2-2	組織運営や人事、財務管理規定が整備されているか。	B
2-3	教職員の採用・定員管理・研修及び評価は適切に行われているか。	B
2-4	予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確であるか。	C
2-5	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがあるか。	B
2-6	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能しているか。	A
2-7	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っているか。	A
2-8	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っているか。	B
2-9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が組織的に行われているか。	B

まとめ	課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の見直しを定期的に行い、効率的な業務分担を心がけている。また、働きやすい職場環境実現のため、コンプライアンス遵守にも努めている。 ・年に1回から2回、職員との個別面談を行っている。職員が抱えている課題及び学校の課題について意見交換する中で、共通理解を図り、解決策を見出しながら、一人一人の意欲、能力の向上に努めている。 ・職員でのMTGにおいては、自由な発言を保証し、課題に対して、よりよい解決策を導き出している。新しい発想やアイデアを尊重することによって、創造的な学校づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算管理については、各校の予算の共有が必要であるとする。 ・予算の設定がないため、消耗品及び備品購入の際、年間を通して見通しを持って予算執行の計画を立てることが困難である。 ・法人内の日本語学校の人員配置は、学校の実情に応じて多少の変動はあったとしてもある程度、統一された採用基準が望ましい。 ・グループ校内での情報共有、学校運営方法やシステムの統一化が必要であると思う。 ・職員の資質向上のための研修等が未実施のため、大学や民間の研修会なども含めて研修の機会を設けることが今後の課題である。 ・現在、留学推進センターと各校のMTGが年に数回行われているが、それ以外に他校とのMTGがないため、今後は校長会や主任会などの定期的な開催を期待する。

3.教育活動		
(1)教育活動の計画		
3-1-1	日本語教育機関の告示基準第六（教育課程）は守られているか	A
3-1-2	理念・教育目標に合致したコース設定をし、目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成されているか	A
3-1-3	国内、または国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしているか。	A
3-1-4	教育目標に合致した教材を選定しているか。	A
3-1-5	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか。	A
3-1-6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に教材研究を進める中で、学生の実態を踏まえた指導法の研究や開発に取り組んでいる。 ・教育目標の達成に向けて、学生の状況を日常的に情報交換している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・はじめて学生を実際に受け入れて日本語教育を行っているため、カリキュラムや教材の選定に改善の余地があると考え。そのためにも、卒業する時の到達レベルを意識して教育に励みたいと思っている。
(2)教育活動の実施		
3-2-1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか。	A
3-2-2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴、その他、指導に必要な情報を伝達しているか。	A
3-2-3	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか。	A
3-2-4	授業記録及び出席簿を備え、正確に記録しているか。	A
3-2-5	理解度・到達度の確認を実施期間中に行っているか。	A
3-2-6	特定に支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか。	B
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・システムを活用した出席管理により、学生への個別フォローを行っている。また、定期テストにより学生のレベルに合わせたクラス編成、教材選定を行い、学生の理解度を高める指導を徹底している。理解度については、定期的に確認している。 ・学力向上を目指して、正規の教育課程以外に、補講を実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる入国制限の影響もあり入国した学生から順にクラス編成を行ってきた。そのため、初級クラスでは学生のレベルに応じた編成ができなかった。 ・成績下位者に対しての指導方法の検討が更なる課題であると感じた。 ・授業記録及び出席簿を備えて正確に記録しているが、今後も正確に記録していく必要がある。
(3)教育活動を担う教職員		
3-3-1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めているか。	A
3-3-2	教育の指導力向上のための取組を行っているか。	A
3-3-3	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を定めているか。	B
3-3-4	入管事務担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限を定めているか。	A
3-3-5	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化しているか。	A
3-3-6	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っているか。	B
3-3-7	教員及び職員の評価を適切に行っているか。	B
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上のため、常勤講師と非常勤講師の意見交換ができるよう講師会を開催している。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・学生の諸問題に対しては、常時、職員と情報交換をし、共通理解を図りながら、課題解決に向けて取り組んでいる。 ・職員の採用については、集団で協議し民主的な話し合いで決定している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教員や職員に対する評価として、法人による一律の評価方法や振り返りがあるとよいのではないかと考える。 ・職員数が少ないため、教員、生活指導責任者、入管担当者を明確に定められていない。そのため、人員の配置を合わせて考えていく必要があると感じている。 ・現在、少ない人数での業務分担となっているが、今後学生数が増えることを見越して事務職員の増員、入管業務担当者の育成が必要である。 ・生活指導責任者は特に決められておらず、全員で行っている。
4.学修成果		
(1)成績判定と授業評価		
4-1-1	判定基準及び判定方法が明確に定められ適切に行われているか。	A
4-1-2	成績判定結果を的確に学生に伝えているか。	A
4-1-3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか。	A
4-1-4	学生による授業評価を定期的実施しているか。	D
4-1-5	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されているか。	C
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の結果については常勤講師間で判定会議を行い、整合性を確保できるように努めている。 ・テストの結果は言うまでもなく、授業中の学習態度や姿勢など、形成的評価について、日常的に教員同士で情報交換をしている。 ・成績判定結果を的確に学生に伝えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価は実施していないため今後実施を検討したい。ただ、授業の好き嫌いでの評価とならないよう評価方法や形式を十分に検討していく必要があると感じる。 ・学生による評価が十分ではないため、今後実施し、よりよい授業づくりに役立てたいと思う。 ・学生からの評価は分からないため、今後実施を考えてもよいかと思う。

(2)教育成果		
4-2-1	入学から修了・卒業までの学習成果を記録、保管し、適正に管理しているか。	A
4-2-2	修了・卒業の判定を適切に行っているか。	A
4-2-3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握しているか。	A
4-2-4	卒業又は修了後の進路を把握しているか。	A
4-2-5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組を行い、進学先等での状況や社会的評価を把握しているか。	B
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の卒業生は1名であるため、4-2-4及び4-2-5は、今後適切に記録できるよう努めていきたい。 学生管理システムRINGALを導入することにより、職員間との情報交換がより適切に行われるようになってきている。 		<ul style="list-style-type: none"> 2024年3月に一期生が卒業するため、今後卒業生の進路をしっかりと把握していく必要がある。 学生管理システムRINGALが十分に活用できていないところがあるので、次年度は更に活用していきたい。 外部試験の結果及び進路については、今後ともしっかりと把握するように努めている。
(3)進路に関する支援		
4-3-1	学生の希望する進路を適切に把握しているか。	A
4-3-2	進学等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか。	B
4-3-3	入学時から一貫した進路指導を行っているか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> 進路の授業や、担任による個別面談を通して学生の進路希望の把握に努めている。 また、進学に関する資料は図書室で閲覧可能な状態で保管している。 		<ul style="list-style-type: none"> 進路資料の保管がきちんとされていないため、図書室などのスペースを利用し、今後学生が自由に閲覧できるように整えていきたい。 専門学校などの資料を学生が自由に閲覧できるように、限られたスペースではあるが置く場所を工夫していきたい。
5.学生支援		
(1)学生支援		
5-1-1	学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているか。	B
5-1-2	学習相談に対する支援体制が整備されているか。	B
5-1-3	進路に対する支援体制が整備されているか。	B
5-1-4	留学生生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また在籍者全員を対象に日本での生活指導等の支援体制が整備されているか。	A
5-1-5	住居支援を行っているか。	A
5-1-6	アルバイトに関する指導及び支援を行っているか。	A
5-1-7	健康管理、衛生管理について支援する体制を整えているか。	A
5-1-8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入しているか	A
5-1-9	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応及び感染症発生時の措置を定めているか。	A
5-1-10	交通事故等の相談体制を整備しているか。	A
5-1-11	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的実施しているか。	A
5-1-12	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知しているか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> 学生生活、寮生活、アルバイト、防災など各項目について学生へオリエンテーションや訓練を実施している。今後も学生が安心して日本で暮らせるよう、わかりやすく伝える場を設けていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 入国時期にばらつきがあったため、早期にオリエンテーションを行えないケースがあった。日本や学校のルールは早期に知ってもらいたいので、今後は早期に実施していきたい。 生活面やアルバイトに関する更なる指導が必要であると思われる。
(2)入国・在留に関する指導及び支援		
5-2-1	入管事務担当者は、研修受講等により適切な情報取得を行っているか。	A
5-2-2	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っているか。	A
5-2-3	在留上、問題のある学生への個別指導を行っているか。	A
5-2-4	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っているか。	A
5-2-5	過去2年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> アルバイトの上限時間については、日常的に学生に指導しているが、特に、長期休暇前には、クラス単位でのオリエンテーションを行い、アルバイトに限らず、日本の法令順守を厳格に指導している。 法律を順守することが、自分を守ることになることをしっかり理解させるように指導しているが、今後とも指導を強化し、学生が安心して日本で暮らせるよう、日常時に、分かりやすく伝える場を設けていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 違反者に対する罰則の基準設定、グループ校での統一化が必要であると感じる。 学生によって法律遵守に対する意識に差があるため、個に応じた指導の徹底が必要である。 アルバイト先の企業と常時情報交換をしながら、企業の協力を得ながら、学生に対して、法律遵守の意識を高めていく必要がある。 学校による学生の管理には限界もあることから、法律逸脱行為については、学生同士が相互に注意し合える人間関係を築くことが重要であると考えている。

6.教育環境		
6-1	安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されているか。	A
6-2	教室、その他の施設は「日本語教育機関の運営に関する基準」及び「日本語教育機関の告示基準」に適合しているか。	A
6-3	教室は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されているか。	A
6-4	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能であるか。	B
6-5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保しているか。	A
6-6	同時に授業を受ける学生数に応じたトイレを設置しているか。	B
6-7	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状であるか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に発生した地震を想定しての避難訓練を実施している。生活時間帯がそれぞれ違う寮での避難訓練の方法については、今後検討を重ねていきたい。 ・学校の近くに川が流れていたり、広い河川敷があるなど、自然環境に恵まれており、大変素晴らしい学習環境の中で、教育活動を行うことができている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの数が少ないため、今後定員が増えた場合の対応を検討しておくべきかと思う。 ・階段が外階段一つなため火事や地震の際に、2方向から避難するのは大変難しいと考えている。避難はしごはあるものの、避難する際に転落する危険性も高いことから、火急の避難においては、利用はかなり困難であると思う。 ・校舎の面積的に、図書室の蔵書数やパソコンなどの機器類は数に限りがある状況である。今後、学生数が増える場合には蔵書数、パソコンなどの機器類の充実が望ましい
7.入学者の募集と選考		
7-1	入学者の募集は、学生の受入方針に基づき適切に行われているか。	A
7-2	入学志願者に本校の学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件等が正確に伝えられているか。	A
7-3	海外の募集代理人（エージェント等）に正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握しているか。	A
7-4	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っているか。	A
7-5	入学志願者の学習能力、勉強意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか。	A
7-6	入学検定料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されているか。	A
7-7	関係諸法令に基づいた学費返還規程が定められ、公開されているか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・入学段階で、学習意欲は高いものの、語学力がともなっていない学生もそれなりに存在することから、入学後に学生の実態に応じた教材の選定や指導法の工夫に取り組んできている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者の日本語力や意欲は面接や書類を通して確認しているものの、入学希望者の学習ニーズと合っているとはいえないケースが見受けられた。そのため、今後はさらなる絞り込みが必要である。
8.財務		
8-1	財務状況は、中長期的に安定しているか。	A
8-2	予算・収支計画の有効かつ妥当なものとなっているか。	B
8-3	適正な会計監査が実施されている。	B
8-4	財務情報の公開の体制はできているか。	C
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・校内の会計処理は、担当がしっかり適正に処理している。 ・教育活動に対する支出は、より一層充実した教育活動の実現のために、効果的に妥当性をもって実行してきている。 ・予算請求する時は、その妥当性、必要性を職員間において十分に協議し、稟議を上げている。 ・経費が必要な時は、必ず、複数の業者に見積もりを依頼して、経費節減に取り組んでいる。 ・無駄を省くことが、財務状況を安定化させることであると、職員間で共通の認識になっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・予算や収支報告が公開されていないため、年度ごとの財務計画に沿って予算を立てることができない状態である。 ・予算計画があれば、計画的に設備投資や学生への支援など、教育活動や教育環境をより一層改善できるのではないかと思うので、収支報告の公開を希望したい。 ・各校の予算について共有が望ましい。 ・収支については、法人事務局での財務管理となっているため、各校の財務状況については確認することができない。今後、各学校においても確認できるようになれば、教育活動に対して予算化することが可能となり、より充実した教育活動の実現に向けて改善できるものと思う。
9.その他		
9-1	出入国管理及び難民認定法令等の遵守と適切な運営がなされているか。	A
9-2	個人情報保護のための対策をとっているか。	A
9-3	地方出入国在留管理局、その他関係官公庁等への届出、報告を遅滞なく行っているか。	A
まとめ		課題・改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・法令を遵守して適切に運営している。届け出、報告についても遅滞なく行っている。 ・個人情報漏洩防止に向けて、ファイルなどを整備している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理方法については、書類上のものもパソコン上のものも、まだ、十分であるとは言えないため今後検討が必要だと思う。

10.地域貢献・社会貢献

10-1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	B
10-2	学生ボランティア活動への支援を行っているか。	D
10-3	公開講座等を実施しているか。	D
まとめ		課題・改善点
<p>・学生寮ホールを町内会の会議の会場として開放し、地域住民との協力、連携に努めている。</p> <p>・地域住民から、寮生に対して、すいかを10個提供していただくなど、地域住民との交流の足がかりができてきている。</p>		<p>・地域との交流を図る機会を設けることができなかったため、次年度以降は催しの開催など地域住民と学生が関われる場の提供をしていければと考えている。</p> <p>・本校及び学校寮の地域や他学校等と連携した活動等は、まだ実施していない状況である。留学生にとって貴重な学習の場にもなると思うので、検討していきたい。</p>